鹿児島にゆかりの女性たち

『鹿児島初の助産師養成学校創設者』

石神 徳子【1849～1934】

嘉永二(一八四九)年、鹿児島市清水町に誕生。長じて海軍軍医の石神雄弘に嫁いだが、明治二十一(一八八八)年、夫と死別。産婆(助産師)を志し、医師会が千葉県から招いた東條保子に師事し、西洋医学による新式助産術を伝授された。

明治二十二(一八八九)年、県の免状を得て自宅で開業。明治二十六(一八九三)年、産婆学(助産学)の追究をめざし上京、櫻井病院附属産婆学校に入校し、看護学も併せて学んだ。卒業後、内務省の免状を得て明治二十八(一八九五)年、帰郷。千石馬場で助産所を開業する一方、私財を投じて産婆(助産師)養成に着手し、翌年、県下初の産婆(助産師)養成学校を開校した。その後、学校は西千石町に移転、産婆学講習会と改称した。

産婆学講習会は、昭和四(一九二九)年十一月までに千三百名余りの卒業生を輩出、分娩取扱数は八千余りに上り、鹿児島の助産師教育に多大な功績を残したが、第二次世界大戦の戦火で焼失、その幕を閉じた。

石神の功績を讃えて建立された胸像は、現在、鹿児島市鴨池新町の㈳鹿児島県看護協会研修会館内に設置されている。

【すてっぷ】第 29 号　編集後記

今回は男女共同参画のチャレンジを特集しました。

働き方が多様化するなかで、一人ひとりの夢を大きく咲かせるために、色々なことにチャレンジして、自分や社会を輝かせる何かを探してみてはいかがでしょうか。きっとあなたらしいチャレンジが見つかると思います。

【表紙】男女共同参画都市宣言記念モニュメント

男女がお互いに尊重しあい、喜びも責任も分かち合い、共に社会を担っていこうとする姿を表しています。
平成13年1月30日。鹿児島市は「男女共同参画都市かごしま」となることを宣言しました。

本冊子は、紙へのリサイクルに適した材料のみ用いて作成しています。

すてっぷ【第29号】発行／鹿児島市市民局市民部男女共同参画推進課　〒890-0054鹿児島市荒田一丁目4-1☎099（813）0852　制作／斯文堂株式会社